

第13回 TQM活動発表セミナーを開催しました。

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2019年2月2日（土）、品川駅に隣接する「東京コンファレンスセンター・品川」にて健育会グループ第13回TQM活動発表セミナーを開催しました。

毎年この季節はインフルエンザが流行するシーズンですが、今年は例年以上に猛威を振るっており、全国で28万人以上の患者報告数があったようです。今回、日頃の忙しさの疲れもあってかTQM活動発表セミナーのタイミングで私も罹患してしまいました。本来であれば何があってもセミナーに出席したいところでしたが、感染防止の観点から欠席させていただきました。セミナーについては、私の代理を健育会グループ副理事長の岩尾 総一郎先生にお願いしました。



岩尾副理事長挨拶

トータル クオリティ マネジメント（TQM）は、総合的品質管理が直訳です。品質が厳しく問われる製造現場の管理手法を医療現場に導入し、様々な医療行為を品質の視点で捉え、良質な医療サービスを提供して患者満足度の向上や医療安全の推進に役立てようという取り組みです。医療・介護のTQMにおける品質とは、業務を実施する上での質を総合的に向上させることです。患者さんにとって何が良い医療・介護なのか、また、それを実現するには病院や施設、そして各部門や職種は何をしたらいいのかを考え、その足りないところを改善し患者サービスの向上、事故の未然防止、医療の質の向上、経費節減への成果につなげていこうとするものです。

よりよい品質・サービスを提供するための改善活動を全員参加で継続的に行っております健育会グループのTQM活動発表会も今回で13回目を数えることになりました。今回は11月に石巻健育会病院の勝俣院長が大会長となりまして、医療の改善活動全国大会が仙台で開催されます。本日の発表の多くが仙台での大会に進むことができることを期待しています。

今回のTQM活動発表セミナーは、各病院・施設よりグループ内地区予選を勝ち抜いた18題（前半9題、後半9題）が発表されました。

前半の部においては、竹川病院 田中 眞院長が座長を務め、9の改善事例が発表されました。

発表《前半》

1

自宅内の活動時における転倒者の減少

大崎ひまわり訪問看護ステーション
新田 友哉（理学療法士）
チーム名：STOP転倒むし

2

回復期EAST病棟の転倒・転落を減らしたい！

ねりま健育会病院
間藤 大輔（理学療法士）
チーム名：プロジェクトEAST

3

身体抑制におけるゼロへの実現

熱川温泉病院
星指 菜摘（看護師）
チーム名：ほんとうはしたくない

4

施設内感染の予防取り組み 手洗いに着目した効果判定

ケアセンターけやき 河井 ともみ（看護師）
チーム名：インフルエンザはU.（うつさないように）
S.（触ったら）A.（洗おうね）

5

地域包括ケアによるターミナルケアチームの整備 ～住み慣れた地域にて看取りの体制づくり～

ナースイン花ぴりか 奥本 慶一（介護福祉士）
チーム名：ぴりか100%

6

特別養護老人ホームにおける持ち上げ介助回数の低減

ケアポート板橋
中井 政宗（介護福祉士）
チーム名：ケアツール板橋

7

入院患者における日常生活自立度の向上

いわき湯本病院
大河原 一真（作業療法士）
チーム名：生活活性化委員会

8

選択食の導入 ～地域一番のホームを目指して～

ライフケアガーデン湘南
佐藤 由佳（管理栄養士）
チーム名：MEAL CHOICE

9

集団栄養指導による患者さんの食への意識向上

茅ヶ崎セントラルクリニック
佐野 敦子（管理栄養士）
チーム名：セントラルお料理隊



後半の部においては、石巻健育会病院 庄司 正枝看護師長が座長を務め、9の改善事例が発表されました。

発表《後半》

10

地域包括ケア病棟におけるポータブルトイレ使用率の低減

西伊豆健育会病院
船津八重（ケアワーカー）
チーム名：西伊豆健育会病院



11

介護老人保健施設における入所ご利用者の余暇時間の充実

ライフサポートひなた
城鳥一彦（介護福祉士）
チーム名：通所と入所をつなげ隊



12

集団リハビリの活用による余暇時間の充実

ライフサポートねりま
井戸寛人（理学療法士）
チーム名：よか時間つくと隊



13

有料老人ホームにおけるレクリエーション満足度の向上

ライフケアガーデン熱川
山崎智弘（介護福祉士）
チーム名：日々の生活を輝かせ隊



14

回復期リハビリテーション病棟における多職種ミニカンファレンスのシステムの構築

石巻健育会病院 村上貴彦（理学療法士）
チーム名：IPC半端ないって！



15

介護福祉士の情報収集統一化と電子カルテの運用の見直し

花川病院
長沼誠治（介護福祉士）
チーム名：記録はこれでいいんかい？

16

デイケアにおける入浴時間の能率アップ

介護老人保健施設しおん
辺見裕行（ケアワーカー）
チーム名：入浴タイムズ



17

しおさいデイケアにおけるサービス提供時間の延長

介護老人保健施設しおさい
石井武美（介護福祉士）
チーム名：Nana-Hachi

18

ゼロトーーク！！竹川半端ないって！

竹川病院
武田俊一（理学療法士）
チーム名：レベル3消し隊

前／後半のそれぞれの演題が終わった後には、田中院長、庄司看護師長より、発表演題1題1題に丁寧な講評をいただきました。



その後、審査員長である東邦大学医学部教授 長谷川 友紀先生を中心とした審査員7名によって別室で協議された結果、次の最優秀賞1題／優秀賞2題が選ばれました。

最優秀賞

特別養護老人ホームにおける持ち上げ介助回数の低減

ケアポート板橋

チーム名：ケアツール板橋



ご利用者を持ち上げる場面が多い介助と回数を調べると、ベット上で持ち上げる回数が多いこと、またベッドでの上方移動、体位交換を行う際、持ち上げることでご利用者への負担がかかることもわかった。そこでスライディングシートを使用することで、持ち上げ介助回数の低減を図った。使用方法を教えられる職員の育成、勉強会の実施、マニュアルの作成などを行うことにより、対策実施前にスライディングシートを使用していない職員が39人であったのに対し、対策実施後には3名にまで減り、波及効果として表皮剥離事故や褥瘡発生件数が低減した。

優秀賞

介護福祉士の情報収集統一化と電子カルテの運用の見直し

花川病院

チーム名：記録はこれでいいんかい？



医療療養病棟60床から地域包括ケア病床30床、医療療養病床30床に変わったことにより入退院患者が急増したが、介護福祉士は患者情報をタイムリーに把握できずに適切なケアができないでいた。申し送りノートでは情報が混在しており、電子カルテを活用できていない現状から、患者情報収集の統一化と電子カルテ運用の見直しを課題とした。電子カルテのマニュアル作成、勉強会実施等の対策を行うことにより、電子カルテによる患者情報の把握／記録が実施前14%から実施後100%と改善し、チーム医療の一員としての自覚が生まれた。

優秀賞

しおさいデイケアにおけるサービス提供時間の延長

介護老人保健施設しおさい

チーム名：Nana-Hachi



平成30年4月の介護報酬改定により1時間ごとのサービス提供時間に変更になった。現行6時間のサービス提供時間では、大きな基本単価の減算が見込まれるため、職員は補充せずに減算幅を最小限に抑えることができないかを検討した。時間の明確化、スタッフの連携、早遅番勤務の導入、送迎の割り振りなどを行うことで、職員の勤務時間を増やすことなくサービス提供時間を対策実施前6時間から対策実施後7時間にすることができ、減算幅を抑えることができた。

審査委員長を務めた長谷川先生から、受賞の表彰の後に、以下のような講評をいただきました。



長谷川先生講評（抜粋）

全体として、どのご発表においてもストーリーのまとめ方や発表の仕方が上手で、年々レベルが上がってきていると感じています。

TQMの審査においては、審査員みんなが納得して「感動する」ということが大切です。そのためには、TQMのストーリーがしっかりと見えることが大切であり、かつ、ポジティブな形で達成感が見えるところが重視されることです。また、質疑応答は通常の発表ラインでは話すことができない内容を、質問を機会に話すことができるチャンスでもあります。ですから、質問を想定してきちんと答えを準備をして欲しいと思います。そのような準備ができるというのもチームの力だと思います。健育会のモットーは学んで改善することだと感じています。そのためには何事も普段からポジティブに考えなければいけませんし、自分の気持ちを明るくしていくことが大切です。そうするとよりいい結果を得られるし、学ぶチャンスも出てきます。ですから発表の場もそのようなチャンスと捉えて楽しんでいただくと非常に良いと思います。

セミナーの後には、懇親会を行いました。

懇親会の冒頭には、日本病院会理事で茅ヶ崎市立病院 病院長の仙賀 裕先生にご挨拶をいただきました。

今回はお招きいただきありがとうございます。私は急性期病院に勤めているのですが、今回のセミナーでは急性期病院では思いつかないようなテーマが多く、とても新鮮に感じました。演題の内容はもちろんのこと、それぞれのご発表の後の質疑応答が、普通のセミナーや学会と比較するとあり得ないくらい活発で驚きました。それだけ盛んに質問があるということは健育会グループという組織そのものが活発だということだと思います。そしてご発表からは、職員の皆さんが患者さんや地域の皆様のために頑張っていられる姿を見させていただき感銘を受けました。ありがとうございました。



その後は、4回目となる介護施設の年間MVP賞の表彰式を行いました。これは介護施設ごとに毎月実践している月間MVPの受賞者の中から、年間MVP賞を決定し受賞した職員の功績を讃えるものです。各施設から選ばれた職員に、岩尾副理事長から表彰状を渡してもらいました。





その後、健育会グループの顧問弁護士 宮澤 潤先生から乾杯のご発声をいただき、いよいよ懇親会が始まりました。参加者全員で美味しい食事を楽しみながら、和やかな交流のひと時を過ごしました。



そして、最後の中締めの挨拶は、湘南慶育病院の鈴木院長よりいただきました。



昨年の4月に院長に就任しました。湘南慶育病院にきて、それまで大学で関わってきた急性期医療だけではなく、回復期あるいは療養というものが医療の中で重要になってきていることを実感しております。ここは、いかにして患者さんやご家族にご満足のいく慢性期あるいは終末期を迎えていただくかということを考える組織であり、その中に加わらせていただけたことは私にとって大変幸せであると感じています。医学雑誌の編集をいくつか担当しているのですが、ここ数ヶ月で慢性期医療／終末期医療の特集を2つ作ろうとしています。現在の高齢化社会の中で、このような医療が本当に大切だということを感じております。

今回初めてTQM活動発表セミナーに参加させていただきましたが、「目から鱗」の会でした。ご発表では、すぐに活用できるような結果が出ている演題もありました。そしてその中でも優秀賞、最優秀賞をとった演題は、全国でもかなりのレベルなのではないかと感じました。

湘南慶育病院は一昨年の11月に開院しておかげさまで1年以上が経ちました。まだTQMにはデビューしていませんが、来年はぜひ発表したいと思っておりますので、ご指導くださりますようよろしくお願いいたします。

私も今回のTQM活動発表セミナーの抄録の内容を目を通し、セミナー終了後の報告も受けましたが、今年度もさらに発表内容が進化している印象を受けました。TQM活動は、活動することはもちろん大切ですが、日々の業務にTQMで学んだ視点を取り入れて、さらなる医療・看護の質の向上を目指して欲しいと願っています。そのような意味で、今回のご発表の中には日常業務からの疑問に基づいたユニークな発想の活動などもあり、日々職員の皆さんが患者さん・ご利用者のために試行錯誤しながら、また楽しみながら一生懸命に業務に励んでいる様子が垣間見えるように感じ嬉しく思いました。

今年は、石巻健育会病院の勝俣院長が大会長となる、医療の改善活動全国大会in仙台も控えています。グループ全体でTQM活動を盛り上げていければと考えています。